

標 題 : Relative validity of a semi-quantitative food-frequency questionnaire in an elderly Mediterranean population of Spain
スペインの高齢地中海沿岸住民における
半定量食品頻度アンケートの相対的妥当性

著 者 : J. D. Fernández-Ballart, et al. (スペイン Rovira i Virgili 大学
医学健康科学部 予防医学ヒト栄養科)

掲 載 誌 : Br. J. Nutr. 103: 1808–1816 (2010)

要 旨 :

本研究の目的は、地中海食事による心臓血管系疾患の一次予防を高心臓血管系リスクの人々で行った臨床試験である PREDIMED 研究で使用した自己記入の食品頻度アンケート(FFQ)の相対的妥当性を評価することであった。

FFQ を 1 年に 2 回実施して(FFQ1 と FFQ2)再現性を探った。

4 回の 3 日間食事記録を参照として用いて妥当性を探った ; そのため参加者は 1 年に 12 日間食事摂取を記録した。

FFQ2 からの情報と食事記録を比較する 5 分割表によって、FFQ での誤分類の程度も評価した。

合計 158 人の男性と女性(55–80 歳)に研究期間中に食事習慣を変えないように要請した。

ピアソンの相関係数(r)で探索した食品群、エネルギーおよび栄養素の摂取についての再現性は 0.50–0.82 の範囲であり、クラス内相関係数は 0.63 から 0.90 の範囲であった。

FFQ2 は食事記録よりも高いエネルギーおよび栄養素の摂取を報告する傾向であった。

食品群、エネルギーおよび栄養素について食事記録と関連する FFQ の妥当性指数(r)は 0.24 から 0.72 の範囲であったが、クラス内相関係数は 0.40 と 0.84 の間であった。

食品群に関して、68–83%の人は両方の方法で同じか隣接の 5 段階区分であったが、エネルギーおよび栄養素の摂取では値が 55–75%に低下した。

他の追跡研究で使用された FFQ と同様に、FFQ 測定は良い再現性および相対的な妥当性があると、我々は結論を出した。

キーワード : 妥当性、食品頻度アンケート、食事記録、地中海沿岸住民、PREDIMED 研究、スペイン
